


高等部 深澤菜摘さんの妹さんの書いた作文が、
内閣府の「平成29年度障害者週間 心の輪を広げる体験作文」で
全国において中学生部門の優秀賞に選ばれました。御紹介します。



とくべつ いっぼん
「特別な一本」

高山市立朝日中学校 深澤 菜月

「障害者はなにもできない。」 「障害者はきたない。」 「障害者は人を
不幸にする。」 障がい者に対して、そんなイメージを持った人に伝えたい。

一本の染色体が私に教えてくれたことを。

「おはよう。」 今天も朝から元気な声がします。「なっきー、今夜一緒にお
風呂入ろう。」 なっちゃんが誘ってきます。いつもニコニコ笑顔の絶えない
私の姉はダウン症です。

ダウン症について詳しく知っている人はどれ程いるのでしょうか？おそらく
多くの方はよく知らないでしょう。私も姉がダウン症でなければ知らなかつ
たし、知ろうともしなかったと思います。

ダウン症^{しょう}は21番目の染色体^{ばんめ せんしよくたい}が一本多く三本あるために発症^{はっしょう}します。でも、その一本^{いっぽん}には、私^{わたし}を含め、みんなが持っていない何か^{なにか}があると思っています。

姉^{あね}はとても優しい心^{やさ ころも}を持っています。私^{わたし}たち家族^{かぞく}のことを大好きな気持ち^{だいす きも}が伝わってきます。私^{わたし}が落ち込んでいるとき、何も言わずそば^{なにか}にいて一緒に泣いてくれます。反対^{はんたい}にうれしいときは自分のことのように飛び上がって喜んでくれます。本当^{ほんとう}に優しい姉^{あね}なのです。

それなのに、私^{わたし}は姉^{あね}に対して冷たい態度^{つめ たいど}をとってしまう時^{とき}があります。姉にはがんばっても出来ないことがたくさんあると分かっているのに、無理なことを言ってしまう時^{とき}。出来ないことにイライラしてしまう時^{とき}。どうして自分だけが叱られなくてはならないのかと思ってしまう時^{とき}などです。特に二人で同じことをしていたのに、私^{わたし}の方が強く叱られたりすると、その感情^{かんじょう}が抑えられなくなってしまうことがあります。そして、姉^{あね}に八つ当たり^{や あ}をし、ひどい言葉^{ことば}を浴びせてしまいます。

一度^{いちど}姉^{あね}と大喧嘩^{おおげんか}をしたことがあります。原因^{げんいん}はささいなこと……。取っ組み合い^{とくくみあひ}の喧嘩^{けんか}になり二人とも大泣きしました。その時^{とき}、姉^{あね}にも抑えられない感情^{かんじょう}があったんだと少し驚^{すこ おどろ}きました。いつもは穏やかで優しい姉^{あね}。きっと、

ほんとう わたし いろいろ い がまん おも こころ なか
本当はいつも 私に色々言われて我慢していたのだらうと思いました。心の中
おも
で思っていることをうまく言葉で表現できないから我慢してしまう。日々そ
く かえ
の繰り返しなのかもしれないと思いました。だから、私 は姉の気持ちを姉の
たちば かんが
立場になって考えてあげなくてはいけないと考えるようになりました。イライ
らしたとき、一度目を閉じて「私 が姉なら……。」と考えるから話をするよう
にしました。すると、私自身がとても優しい気持ちになることが出来ました。
た。

あね まわ
姉の周りにはいつも多くの人が集まってきます。だから、私 は、姉のおか
おお ひと し あ
げで多くの人と知り合うことができました。姉には人と人とを結びつける力
があるのだと思います。以前、姉と話をした人が「とても楽しくて、優しい
き も
気持ちになれたよ。」と言ってくれました。その言葉を聞いて私 は嬉しくな
りました。

さくねんおこな
昨年行われたアンケートで、ダウン症のある人の90%以上が幸せだと感
じているという結果が出ました。障がいがあるということは、もちろん大変
です。でも、その分幸せも大きいのです。私 は、その幸せな気持ちが周囲の
ひと つた
人にも伝わり、周りまで幸せで優しい気持ちにしてしまうのだと思います。

ダウン症^{しょう ひと}の人^もしか持^もっていない^も特別な^{とくべつ}一本^{いっほん}の染色体^{せんしよくたい}。その特別な^{とくべつ}一本^{いっほん}には、思いやり^{おも}の気持ち^{きもち}、優しい^{やさ}気持ち^{きもち}、みんな^{みんな}を幸せ^{しあわ}にする^{する}心^{こころ}がたくさん詰^つまっている^つのです。

私^{わたし}は、ダウン症^{しょう}の姉^{あね}がいる^{いる}ことで多^{おほ}くの事^{こと}を学^{まな}ぶ^ぶことが出来^{でき}ます。

学^{まな}んだり知^しった^{つた}ことを、自分^{じぶん}の心^{こころ}の中^{なか}だけにとどめて^{とどめて}おく^{おく}だけでなく、友人^{ゆうじん}や周^{しゅう}圍^いの人^{ひと}に伝^{つた}えて^ていく^{いく}こと。そして、ダウン症^{しょう}に^{かぎ}限^りらず、障^{しょう}が^いの^{ある}人^{ひと}とこれ^{これ}からも触^ふれ^あ合^あって^ていく^{いく}こと。これ^{これ}こそ^{こそ}が、障^{しょう}が^いをも^もった^{あね}姉^{いもうと}の妹^{いと}として、そして一^{ひとり}人^{にんげん}の^{わたし}人間^いとしての^{かた}私^{わたし}の^い生^{かた}き^{かた}方^{かた}です。

こ^{かんが}んな^{かんが}ふう^{かんが}に考^{かんが}え^{かんが}さ^{かんが}せ^{かんが}て^{かんが}く^{かんが}れ^{かんが}た^{かんが}の^{あね}も^も持^もつ^も特^{とく}別^{べつ}な^{いっ}本^{ほん}の^{せん}染^{しん}色^{しよく}体^{たい}の^おか^かが^かけ^かです。み^{しあわ}ん^{しあわ}な^{いっ}を^{いっ}幸^{しあわ}せ^{いっ}に^{いっ}す^{いっ}る^{いっ}一^{いっ}本^{いっ}。み^{やさ}ん^こな^こを^こ優^{いっ}しい^{いっ}心^{いっ}に^{いっ}す^{いっ}る^{いっ}一^{いっ}本^{いっ}。そ^{いっ}して、
人^{ひと}と^{ひと}人^{ひと}と^{いっ}を^{いっ}つ^{いっ}な^{いっ}げ^{いっ}る^{いっ}一^{いっ}本^{いっ}。

本^{ほん}当^{とう}に^{とく}特^{べつ}別^{いっ}な^{いっ}一^{いっ}本^{いっ}です。



美術の授業で「花火」を描く菜摘さん